

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 3月 18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170503445		
法人名	株式会社 グローバルケアマネジメント		
事業所名	ポテトタウン 北の沢		
所在地	札幌市南区川沿1条3丁目5-23 (電話) 011-572-6655		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成22年3月15日	評価確定日	平成22年3月25日

【情報提供票より】(22年 3月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 8月 25日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	9 人	常勤 6人、非常勤 3人、常勤換算	7.9人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1~2	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000~30,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費:15,000円 暖房費:8,000円(11-3月)
敷金	(有) 29,000~30,000円	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		900 円

### (4) 利用者の概要(3月 15日現在)

利用者人数	7 名	男性	0 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.75 歳	最低	70 歳	最高	90 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 五輪橋内科病院 小笠原クリニック こじ歯科医院
---------	--------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム ポテトタウン北の沢」は札幌市郊外の自然環境に恵まれた住宅地に立地している。2世帯住宅を改装した住宅は家庭的な造りを残し、居心地の良い空間になっている。管理者と職員は利用者の自立した暮らしを支え、生活の経過記録を毎月家族に送り、状態に合わせて介護計画も毎月見直している。安全面でも消防署の協力のもとに火災避難訓練や救急救命を実施し、自主的にも毎月防災訓練を行っている。安心できる環境の中で、利用者は弁当を持って近くの野外で食事を楽しみ、時には東海大のラベンダー畑や桜を見に遠出をしている。職員は常に利用者向き合っ寄り添うケアを実践している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回外部評価の取り組みで、職員研修、同業者間の現場研修、介護計画などの課題は改善されている。看取り方針の文章化、近隣の連絡先を入れた緊急連絡網の作成などは継続して取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は昨年のサービス評価を参考に月例会で話し合い、管理者が内容をまとめて閲覧できるように玄関ホールに掲示している。また昨年の外部評価の課題は継続して取り組んでいる。今年度の外部評価の結果後に課題を職員間で検討し計画的に改善に向けて実行する予定でいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	昨年は2~3ヶ月間隔で運営推進会議を開催し、利用者と家族の代表、町内会の役員、地域包括支援センターの職員が参加している。利用者の状況、ボランティアの催しや行事関係、外部評価の結果などを報告し、防災訓練や応急処置について意見や情報を交換している。今後は会議に多くの家族が参加できるような方法も検討している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の来訪時や電話での連絡時に意見を聞き出すように心掛けている。利用者ごとの連絡ノートを作り、意見が出された場合は対応を話し合い改善に努めている。行事の際に家族同士が情報を交換している中で気付く点もあり、ケアに役立っている。今後さらに意見を吸い上げるために家族会の持ち方を検討している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会活動の中に利用者が参加できる行事が少ないため、事業所の行事に近隣の方の参加を呼びかけている。昨年は庭でバーベキューを行い、運営推進会議の委員が参加し、子供連れの方の近所の方も立ち寄り交流の機会になった。また地域のボランティア訪問もあり、歌や楽器演奏の催しを楽しんでいる。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「穏やかで人間らしい暮らし、自分らしさや誇りの持てる暮らし、住み慣れた地域での安心した暮らし」という理念の内容を意識し、一人ひとりが安心していただける拠り所を大切に実践している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員、家族はもとより、利用者にも理念が分かるように居間などの要所に理念を掲げ読んでもらっている。職員の採用時に理念を学習している。月例会では理念を取り上げ、利用者の違いを受け入れ本人らしい暮らしになっているか確認している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会活動の中に利用者が参加できる行事が少ないため、事業所の行事に住民の参加を呼びかけている。昨年は庭でバーベキューを行い、運営推進会議の委員が参加し、子供連れの近所の方も立ち寄り交流の機会になった。散歩中や庭で外気浴をしながら住民と会話を交わすことが多くなっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は昨年のサービス評価を参考に月例会で話し合い、管理者が内容をまとめて閲覧できるように玄関ホールに掲示している。また昨年の外部評価の課題は継続して取り組んでいる。今年度の外部評価の結果後に課題を職員間で検討し計画的に改善に向けて実行する予定でいる。		自己評価の作成で全職員が項目に記入することで、さらに認識が深まるような取り組みに期待したい。また、家族が外部評価の結果を居室や郵送などでじっくり読めるような工夫にも期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>昨年は2～3ヶ月間隔で運営推進会議を開催し、利用者と家族の代表、町内会の役員、地域包括支援センターの職員が参加している。利用者の状況、ボランティアの催しや行事、外部評価の結果などを報告し、防災訓練や応急処置について意見や情報を交換している。</p>		<p>運営推進会議に参加する家族代表の負担を軽減し、家族の参加意識を高めるためにも前回の会議録を同封し、次回の会議案内を全家族に送るような工夫で、参加への関心が得られるよう期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市・区のグループホーム管理者会議の中で行政担当者から情報を得ている。また市から送られてくる研修の情報も参考にしており、区の担当者にオムツ支給について相談することもあったが、現在は介護認定の申請のついでにパンフレットをもらう程度で相互に行き来するまでに至っていない。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>介護担当の職員は利用者の暮らしの経過を詳細に記録し毎月送っている。身体・精神的な変化への対応や主治医のコメントを入れた受診の状況など、手に取るように分かつと家族から喜ばれている。記録と一緒に行事の写真や金銭明細書をコピーして送っている。家族の来訪時に職員交代の報告や介護計画の内容を確認している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>電話での連絡時や家族の来訪時に意見を聞くように心掛けている。利用者ごとの連絡ノートを作り、意見が出された場合は対応を話し合い改善に努めている。行事の際に家族同士が情報を交換している中で気付く点もあり、ケアに役立っている。今後は家族会の持ち方を工夫し、さらに意見を吸い上げることも検討している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>事情によって法人事業所内で相互に手伝うこともあるが、異動は行っていない。離職がある時は利用者の理解度に合わせて居室で伝えている。長く務めた職員が退職するので、利用者の思いに配慮し、近日中に家族も参加しての送別会を予定している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月例会の後に研修資料を作成し、身体拘束、苦情と守秘義務、記録の取り方などテーマを決めて毎月研修を行っている。勤務などを調整して4人の職員が介護福祉士資格の養成講座を受講し、研修内容を職員間で共有している。外部研修には管理者が中心に参加し、内容を内部研修に充てている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>区のグループホーム管理者会議の研修に職員も参加している。また年に1回は区の管理者交流会で食事会をするので、次回は職員と一緒に参加する予定である。法人の他事業所と全員が相互に行き来し、1日の現場研修を行っている。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用前に見学の中で昼食やおやつを共にし、また希望があれば家族と一緒に宿泊体験も準備し、利用者が安心して利用開始ができるように柔軟に対応している。本人が入院している時は何度も訪問し顔馴染みになっている。入居時の不安を和らげるために仏壇や馴染みの物を持ち込み、入居当初は管理者が寄り添って環境に馴染めるよう対応している。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>管理者は利用者に向き合うケアを常に指導している。職員は傍らに寄り添い、昔話や得意なことを利用者から教わっている。夜勤で利用者の対応に忙しくしている時はそれとなく他利用者の助けがあるなど、家族のような関係の中で支え合っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p>					
<p><b>1. 一人ひとりの把握</b></p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式のアセスメント情報や会話の中から利用者の意向を把握し、介護計画に反映させている。発語の少ない利用者にも希望が出せるように話のきっかけを作り、その思いを職員間で話し合えるだけ叶えられるようにしている。</p>		
<p><b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b></p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>病院からの直接入居が多いので、当初計画は病院の相談員から既往歴及び病状の情報を聞き、実際に院内の生活ぶりや環境を見聞し、さらに家族にはセンター方式のアセスメントに記入してもらい、これらをもとに計画作成担当者が介護計画の原案を作成する。これでしばらく様子を見た後月例の検討会で職員全員で検討し、正規の計画を作成する。家族の承認を得、本人にも説明して実行計画とする。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月を短期計画とし、6ヶ月を長期計画として計画の見直しを行っているが、毎日の介護記録をもとに月例会議でカンファレンスを行い、その時点で必要があれば計画の部分的な修正を行っている。見直しに当たっては家族と話し合いを行い、意見を取り入れて承認を得ている。</p>		
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療機関への通院送迎、買い物の代行ないし同行などのサービスを提供している。家族の希望に応じて利用者の居室ないしは別室での宿泊及び食事の提供の便宜を計っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と本人の希望する医療機関の利用を支援しているが、結果として全ての利用者が当事業所の協力病院を利用している。協力病院は月2回の往診を行っている。他科を含めて通院は事業所で行い、受診に当たっては連絡ノートで医師に必要な情報を提供し、受診結果は逐一詳細に家族に報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの介護は困難であり、常時の医療が必要になった場合には利用困難であることを口頭で家族に伝えている。支援できること、できないことを明確にした上で書面で確認を交わすよう現在準備中である。		重度化や終末期に向けた方針は書面で明確にした上で、できるだけ早い時点で、できれば入居の時点で家族や本人と確認を交わすよう期待したい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念に掲げている「自分らしさや誇りの持てる暮らし」を実践するために、排泄の処置や言葉遣いなどについて現場で指導すると共に月例の会議で勉強会を行って討議している。個人情報の含まれる書類は事務所に保管し、記録する時は利用者の目に触れないように配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活日課として朝食、10時のお茶、昼食、3時のおやつ、夕食、入浴などの時間はおよそ決まっているが、本人の希望、都合、体調によって柔軟に銘々に対応している。運動、レクリエーションなどはある程度声かけはするが、本人の自由に任せて一人ひとりのペースを大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立はその日ごとに職員が交替で、保管してある食材を見比べながら、利用者の希望も聞きながら決めている。じゃが芋・人参・とうもろこし・トマトなど、利用者と一緒に育て収穫した物を食卓にのせて、楽しみを分かち合っている。食事の支度や簡単な下ごしらえ、後片付けにも利用者が参加している。職員も一緒にテーブルに付いて団欒している。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴日は週に4日、午後が可能な時間帯になっているが、希望や必要に応じてそれ以外の時間でも受け入れている。夏や、汚れのある時などは適宜シャワーを浴びてもらっている。拒否のある人は少ないが上手に誘導して、各自毎週2回以上は入浴できている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>食事に関連する家事、畑仕事、掃除、日めくり、カーテン閉めなど各自多様な役割を持って張りのある生活をしている。縫い物、編み物、読書、新聞購読などを楽しみ、レク係の職員が企画する塗り絵や音楽、季節の壁掛け装飾品作りなども喜ばれている。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>夏の天気の良い日は、車椅子の方も含めてほとんど毎日近くの公園や雑木林の小道へ散歩に外出している。あるいは玄関前で外気浴をしたり、弁当を持って近くの野外で食事をしたりする。時には東海大のラベンダー畑や桜を見に遠出をする。冬は通院程度の外出となっている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中は玄関に鍵をかけず、出入りは自由にできる。玄関にはチャイムが付いており出入りを確認できる。出て行こうとする利用者には声をかけ、一緒に付いて出て安全を確保している。万一に備えて近隣の主な住民には発見通報の依頼をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署の協力のもと消防計画を作成し、火災避難訓練を日中と夜間の想定で年に2回、救急救命訓練を2回、計4回実施している。また事業所独自の自主防災訓練を毎月実施している。訓練には利用者も全て参加している。近隣10軒には訪問し文書を配布して万一の時の救援を要請し、訓練にも参加してもらっている。</p>		<p>職員間の緊急時連絡マニュアルはできているが、さらに近隣の援助を求めるために、近隣の住民、クリーニング工場、町内会長宅なども連絡先に加えることを期待したい。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事と水分の摂取量は利用者個々人の必要量と健康状態を把握した上で全員記録すると共に、水分量は1日1200ccから1500ccをメドに、不足する分はかゆ、みそ汁、牛乳などで補充している。カロリーや栄養バランスは職員が参考書などで得た知識をもとに計算し管理しているが、近い将来協力事業所で管理栄養士の指導を受ける計画である。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>南に面した大きな窓いっぱいに見渡せる雑木林から季節の移り変わりを鮮明に感じることができる。共用の場所には長椅子や一人がけの椅子を配置し、みんなと、あるいは一人で、思い思いに安心して居られる場所が確保できるように配慮されている。壁には季節を表わす壁飾りや思い出の写真が飾られて明るい雰囲気を作っている。大きな時計、見やすいカレンダーなどで日時がはっきりわかる配慮もされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>住み慣れた家を離れて暮らす寂しさを少しでも和らげるために、居室には本人の使い慣れた家具類を持ち込むよう、家族の理解と協力を依頼している。タンス、仏壇、位牌、椅子、人形、写真など馴染みの物が賑やかにあふれて、懐かしく、温かい室内の雰囲気がかもし出されている。温度、湿度の管理にも気が配られている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。